

看護しずおか[🌿]

特集1

地域住民のため、看護職のための地区支部活動 P4・5

特集2

委員会活動の紹介 その1 P6・7

先人に聞く 看護の道しるべ

認知症予防に捧げる(最終回) P3

シリーズ

人の一生を支える看護職 P8

令和元年度

VOL.6



東伊豆町素盞鳴神社の118段の雛壇飾り

会員数 21,591名 (令和2年 3月1日 現在)

●保健師…531名 ●看護師…19,495名
●助産師…816名 ●准看護師…749名



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<http://www.shizuoka-na.jp>

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



令和2年1月25日「産後ケアを病院から地域へつなぐ」というテーマで保健師・助産師合同集会を開催しました。保健師38名、助産師39名が参加しました。

県内3地区より、社会的ハイリスクを抱えた母児を、妊娠期から産後まで時系列で保健師・助産師が連携して支援した事例を発表しました。安全な分娩から子育て環境の整備へと繋げるために、互いの職種が病院と地域の連携を強化していくことの重要性を再認識しました。

また「リトルベビーハンドブック」と子育て世代包括支援センターの役割について、保健師より紹介がありました。通常の母子健康手帳では記入の難しい、低出生体重児の細かな成長の記録を残せる一冊となっており、今後幅広く使用出来るよう周知する機会となりました。



1月26日(日)～1月28日(火)に災害支援ナース育成研修を開催

災害支援ナース育成研修は、各地区支部で行われた基礎研修修了者を対象に、山崎達枝先生を講師に3日間の研修を行いました。

災害支援ナースに求められる実践能力は特別なものではなく、看護師として被災者のいのちと生活を看護の視点で捉えて、どのように看護の力で支えていくかを考え、多職種と連携・協働して実践することができる力です。また、災害支援ナースには「被災地の方々に迷惑をかけないこと、自分自身で意思決定し、連携した活動ができるという『自己完結』である」という基本姿勢が求められます。

HUG(避難所運営ゲーム)、夜間避難所体験、被災者・支援者へのこころのケア、クロスロード・講義とグループワークを通して、基本姿勢と実践能力とは何かを学び、自分自身の看護実践を振り返り、災害支援ナースとして登録に向けた思いを新たにしました。



会員の皆様へ

●研修受講料の変更について

令和元年の消費税増税に伴い、令和2年度から研修の受講料が上がります。詳細は、ホームページ又は令和2年度教育計画リーフレットでご確認ください。

●2020年度診療報酬改定に関する情報提供について

日本看護協会から「キャリアナース」上で動画コンテンツを用いた情報提供を2020年3月下旬から予定しているとのお知らせがありました。

「キャリアナース」を利用するためには、ユーザー登録が必要です。まだ、ユーザー登録がお済みでない方は、日本看護協会のホームページから登録をお願いします。

最終回

先人に聞く 看護の道しるべ

認知症予防に捧げる

今回は、喜寿を過ぎても「スリーA 予防デイサービス 折り梅」の所長を務める傍ら、認知症予防の講演会に全国を飛び回るバイタリティーあふれる増田末知子さんにお話を伺いました。今回は最後です。（インタビュー 平成31年1月22日）

増田 末知子さん



全国に広がるスリーA方式

今や認知症は日常茶飯事のこと。先日も認知症予防の講演に埼玉県に行きました。都会の団地やマンションでは講演会が無いようで、170人の方が参加しました。認知症を食い止め、悪化を先送りするのがスリーAの目的です。予防方法があることを講演しました。予防の重要なことは「優しさのシャワー」をかけて笑って楽しく過ごすこと。「認知症予防レク」を行うことだと思います。

認知症のリハビリテーションは、楽しく笑いながら働きかけます。「一緒に楽しみましょう」と相手のハートを動かします。自分自身が楽しんでいないと、相手も楽しくないです。楽しいと右脳が働きます。右脳が働くと前頭葉も働きます。相手に優しさのシャワーをかけます。「優しさのシャワー」とは、見つめる、タッチする、ほめる、一緒に笑うなど「大事にされている」と、本人が感じることをシャワーのようにいっぱいかけることです。嬉しいと感ずることで、脳内ホルモンが出て脳が動き出します。



私がスリーAを始めた当初は、学会で発表しても「痴呆が予防できるわけがない」「痴呆が治るわけがない」と言われていました。ところが活動を始めて20数年経た、平成25年9月の第3回日本認知症予防学会で『浦上賞』を受賞しました。やっと自分の活動が認められ大変嬉しかったです。今では認知症予防は皆がやりたがっていることですね。

平成17年からは、静岡市駿河区宇津ノ谷で「スリーA 予防デイサービス 折り梅」を運営しています。運営目的は認知症のくい止めです。定員は12名、職員は常時6名。おむつ外し運動も目指しています。利用者は静岡市内だけでなく、焼津市など周辺の市からも参加しています。認知症の症状が良くなるのでご家族もとても喜んでいます。建物は自費で建設しました。愛着がわいて大好きなデイサービスです。これからも認知症予防を全国に拡げていきたいと願っています。

認知症予防に取り組んでいる方、興味がある方は無料で講演をさせていただきます。お声をかけてくださいませ。ホームページも御覧ください。

地域住民のため、看護職のための地区支部活動

静岡県看護協会は、賀茂、熱海・伊東、東部、富士、静岡、志太榛原、中東遠、西部の8地区支部で活動を展開しています。地域住民のニーズに対応した看護に関する事業や会員の資質向上に関する事業の中で、今年度重点に取り組んだ活動を報告します。

賀茂地区支部

支部長 小川 秋美

賀茂地区支部は、県内で一番小規模の支部ですが、地域のイベントに積極的に参加し地域住民の方々に看護協会の活動をPRしています。災害看護地区研修受講生が中心となり「身近なものを使っての応急処置や搬送方法」について地区の地域防災訓練に参加し指導を行っています。最近では地域住民が待っていてくれるまでになりました。「継続は力なり」です。

「まちの保健室」では昨年度に続き、乳がんのセルフチェック方法を指導したり、足指測定器を使って転倒予防につながる話をしました。今後も地域住民と共に予防医療の大切さ、健康保持・増進に向けたサポートを行っていききたいと思います。地域の看看連携に努め地域活性活動と支援を続けて行きます。



熱海・伊東地区支部

支部長 鈴木 和美

熱海・伊東地区支部では、地域のイベントに参加し、地域住民の方々に看護協会を知ってもらえるよう活動しています。災害看護地区研修では、伊東市・熱海市のDMAT隊員による「災害看護とトリアージ」「創傷処置や包帯法」などを学びました。また、研修受講生は各市の防災訓練に参加し、医療救護訓練のトリアージの実演にあたりました。まちの保健室では、乳がんモデルを使ってしこり触診体験、セルフチェックの方法を指導しました。コーディネーターに男性も配置することで、多くの方が体験しやすいように工夫しました。今後も、会員や地域住民により有益で充実した地区支部活動を展開していけるよう企画していききたいと思います。



東部地区支部

支部長 石井 広美

東部地区支部では、地域住民の健康保持増進及び福祉の向上に寄与するため「Ⅱ型まちの保健室」に、認知症認定看護師や摂食嚥下認定看護師などの協力員を募り、活動を行いました。各地区のイベントに参加し、看護の仕事や協会活動をアピールするとともに、参加者の医療・介護の相談に対応し、支える看護の実践に心がけています。また、協会員である看護師の質の向上に関する活動として「看護研究発表会」を開催しました。10題と多くの演題の応募があり、100名を超える参加者でした。日頃の業務の中の生の看護実践がみえる発表会となり、各施設間の情報共有の場としても有意義でした。今後も、看護協会を知ってもらうために、地域に出向き住民に寄り添うことができる、地区支部活動にしていきたいと考えます。



富士地区支部

支部長 磯崎 まさ代

富士地区支部では毎年「富士市健康まつり」に参加し、市民の方との交流を深めています。健康まつりで、看護・健康教室を実施し、感染管理認定看護師の指導の下、手洗いチェッカーを用いた手洗い体験、認知症看護認定看護師による認知症予防相談を行いました。手洗い体験は親子で参加する姿が多く見られ、チェッカーで確認することで、普段の自分達の手洗いでは不十分であることが理解できたと好評でした。アンケートでも、楽しかったという声が多く寄せられました。認知症予防相談も昨年から始めましたが、市民の関心が高かったため、今年は認知症看護認定看護師の数を1名増員し3名で対応しました。相談者が多く、待ち時間もありましたが、待ってる間に頭の体操と称したゲームを行い楽しんで頂けました。その他にも、骨密度測定、血圧測定、健康相談を行い448名の方の参加がありました。今後も、地域の皆さんのニーズに応えられるよう活動をしていききたいと思います。



静岡地区支部

支部長 牛之濱 千穂子

メディメッセージ2019が、9月28日(土) 29日(日)にツインメッセ静岡で開催されました。静岡地区支部と志太榛原地区支部の役員24名が協力員として参加しました。2日間の来場者数は延べ9,000人、家族で参加される方が80%以上でした。看護協会のブースには、延べ3,700人の来場者がありました。テーマは「次世代のこどもたちが、看護の仕事体験、仕事の説明や紹介を通して興味・関心がもてるきっかけの場とする」。赤ちゃんだっこのブースでは「赤ちゃんかわいい」と笑顔でお世話をしていました。将来看護師や助産師になりたいという子供たちの声が聞かれました。一般の方に医療を知っていただくよい機会となりました。

看護の質向上を目的に看護実践報告会を11月30日に開催しました。13施設から15演題の応募があり59名の参加がありました。内容は地域連携や患者指導等、病院だけでなく様々な施設からの発表があり、活発な意見交換がなされ有意義な報告会となりました。



中東遠地区支部

支部長 津島 準子

中東遠地区支部の活動の目玉は「多職種協働で行った市民公開シンポジウム」と「中東遠公立5病院の認知症看護認定看護師6名を迎えての認知症看護研修」の2つです。市民公開シンポジウムでは、地域で活躍する歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、訪問看護師の4名をシンポジストとして迎えました。健康増進をテーマとし、駐車場を取って遠くに止めて歩く距離を伸ばすことや固いものを食べる習慣化、そして生きがいを見つけることの大切さなど「今からできること」「日常でできること」等多くのヒントを学びました。

認知症看護研修では、認定看護師による活動報告の後、グループワークを行いました。目の前の問題を1つでも解決すること、どうすればできるのかを目標に、熱いディスカッションを繰り広げました。認定看護師からの「なぜ、その患者さんはそういう行動になったのだろう」という問いや、具体的な方策を丁寧に提供して頂いたことで、研修生の満足度の高い有意義な研修会となりました。今後も地域の強みを活かした活動展開をしていきます。



志太榛原地区支部

支部長 齊藤 博子

志太榛原地区支部は、静岡地区支部とともに「メディメッセージ2019」に参加しました。「看護職の仕事に関わるコーナー」は親子連れなど多くの来場者があり大盛況でした。「子どもが医療に興味をもつきっかけになった」「子どもの夢の手助けになればと思い参加した」等々おおくの感想を頂きました。

今年は初めて夜間の地域防災訓練に参加しました。住民の3分の1が参加し、自衛隊や消防車など大掛かりな訓練となりました。住民も自分の命は自分で守っていかなければという気合が感じられました。今後も災害に向けて新しい知識の普及と実践に役立てる研修を組んでいく必要があると感じました。

まちの保健室は2017年より対象を子育て世代に焦点を当て藤枝市と連携し、子育て支援センターやおやこ館で定期的に開催しています。助産師と小児科の看護師が個別に育児・お子さんの成長・発達・おっぱい・女性相談・産後メンタルケアなど幅広い内容について一人ひとり時間をかけ丁寧に対応を行い、年々来場者も増えています。



西部地区支部

支部長 岩品 希和子

一昨年の台風24号の体験を機に今年度は特に災害対策について取り組みました。

4月の地区支部講演会では「大規模地震に備えて～自分の命は自分で守る～」をテーマに、災害の基礎知識や備え(自助・共助・公助)について学びました。5月の「看護の日・看護週間」でも災害に備えて、災害支援ナースの役割や応急処置等のミニ講座、心肺蘇生法の実演、災害グッズの展示等を企画し、来場者からは災害時用のダンボールトイレやペットボトルを使ったランタンなどに高い関心が寄せられました。

12月の災害看護地区研修では、天竜川河川敷で行われた浜松市総合防災訓練に参加し、地域住民と連携して救護に当たりました。また、いざというとき地域の中で頼りになるのはクリニックの看護師や訪問看護師達です。その方々を対象に市と協力し、災害時看護職ボランティア育成のための研修会も行っています。災害時はあらゆる場で看護職の力が求められ、それに応える責務を改めて感じた一年でした。



委員会活動の紹介 その1

皆さんは看護協会に、職能委員会の他にどんな委員会があるかご存じですか？静岡県看護協会の会員の皆さんが委員会活動を知り、積極的に委員会活動にご参加頂けるよう、今回5つの委員会のうち、広報委員会を除く4つの委員会を紹介します。

教育委員会

教育委員会は8名の委員で活動しています。

静岡県看護協会重点項目である①看護管理者の看護政策力の強化②看護師のクリニカルラダー活用の推進③施設・在宅看護領域を担う看護職の育成④認知症に対応できる看護職の育成に基づき教育研修を実施しています。協会の教育目標のもと、臨床の場で活躍される看護職のニーズに対応するため、月1回の委員会を開催し、研修開催時には、研修生が効果的に学ぶ学習環境を整えています。新企画の13研修を加え19コース、研修定員延べ1,360名の研修企画、運営、評価を行っています。

JNAクリニカルラダーが日本看護協会から提示され、2017年度からラダーの導入・活用に向け、三年間継続して研修を開催しています。今年度は「これでつかえる看護師のクリニカルラダー」をテーマに渡邊眞理氏による講演と浜松医科大学付属病院の相曽氏、下田メディカルセンターの宗村氏から実践報告があり、研修生への助言、意見交換にも参加していただきました。ラダーが活用されてきている反面、各組織の進度には差があり、研修の企画、運営には調整が必要となっています。また「臨床推論を活かして看護力を高めよう」をテーマに宇都宮明美氏、県内の専門看護師

2名による研修も開催しました。臨床において即決即断するアセスメントを丁寧に掘り起し、思考の段階に応じた指導の在り方についても学習しました。

県内の専門・認定看護師、看護実践者の協力、研修生の皆様のご協力のもと教育研修を開催することができました。アンケートにより研修生のニーズの把握と共に、教育委員会活動評価の精度を高める取り組みもしています。2020年度もJNAラダーに準じた看護実践能力育成の研修、組織役割遂行能力育成の研修、自己教育の推進と、多様性、適時性を考慮したテーマ、内容の研修を企画運営していく予定です。



災害看護対策委員会

災害看護対策委員会は、県内の災害拠点病院から選出された6名の委員で活動しています。

活動目的は「災害支援ナースの育成」「看護協会地区支部と協力し地域住民に対し減災の啓発及び支援を推奨」「協会員に対して災害に関する意識の啓発を図る」としています。

近年様々なタイプの災害が全国各地で発生しており、災害看護に対してのニーズが高まっています。地区支部と協力し災害支援ナースの育成を行い、毎年災害支援ナースとして約400名の登録があります。この数字は全国的に見ても多く、静岡県に在籍する看護師が災害に対しての意識が高いことがうかがえます。災害支援ナースになるための育成研修の応募が年々増加しています。そこで令和2年度より多くの会員に災害支援ナース育成研修に参加して頂けるように研修方法を変更しました。災害一般研修は、教育レベルⅠ～Ⅱが対象の「災害看護一

般研修Ⅰ」と「教育レベルⅢ～Ⅳ」が対象の「災害看護一般研修Ⅱ」を開催しています。「災害看護一般研修Ⅰ」は災害看護の基礎をグループワークを通して学習でき、「災害看護一般研修Ⅱ」は各部署のリーダーが災害時のロジスティックを実習を通して学べるように企画をしています。災害看護一般研修は会員以外も受講できるようにしています。

近年起こるだろうと言われている南海トラフ地震では静岡県は被災県となり支援を受ける側となります。そのため災害支援看護マニュアルに受援の項目を追加し、災害支援ナースが災害発生時に病院、施設、地域に貢献できるようにマニュアル改正を行いました。

今後、多くの会員に研修を受けてもらえるよう研修のあり方の検討と、会員以外の看護職にも災害看護研修を受けていただけるような広報と魅力的な研修の企画を行っていきます。



災害支援ナース登録者研修

働き続けられる職場づくり推進委員会

「働き続けられる職場づくり推進委員会」は、看護職が健康で安全・安心して働き続けるために労働環境の整備と医療安全の広報活動を中心に活動しています。委員会活動は6名の委員で構成され、研修の企画や医療安全情報などを看護しすおか（広報誌）にて静岡県内の看護職に届けています。

2019年度の第1回は「ハラスメント対応について」をテーマに、関西医科大学看護学部・看護学研究科の三木明子教授を招いて研修会を開催しました。日本看護協会では提唱されている「看護職の健康と安全に配慮した労働安全衛生ガイドライン～ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を目指して～」をさらに具体的にわかりやすく説明され、現場ですぐに活用できるハラスメント対応について、大変学びの多い研修会でした。2020年度は10月24日に同内容で、研修会を企画しておりますので、ぜひ多くの方の参加をお待ちしております。

第2回は、「ベテラン看護職がやりがいを持って働き続けられる」をテーマに高輪心理臨床研究所・茨城大学名誉教授の岸良範氏の講演がありました。ベテラン看護職自身が自ら看護の振り返りをすることや、講

師と受講生の仲間から、エンパワーメントされ、リフレッシュすることで前向きに働き続けられることを学びました。2020年度には、発達障害について知識を深め、個性に合わせた支援と対処法を学ぶための研修会を6月13日に企画しています。

広報活動では、静岡県内の看護職の医療安全対策や働き方改革などの推進を図る目的で「公益財団法人日本医療機能評価機構 医療安全情報」など、広く周知していく必要があります。静岡県看護協会広報誌「看護しすおか」に、医療安全情報などを掲載しました。これからも、引き続き掲載していきます。委員会メンバーはとても前向きで、明るい方が多く、いつも楽しく委員会活動をしています。



第2回労働環境に関する研修

学術研究推進委員会

学術研究推進委員会は6名の委員で活動しています。委員会の目的は、看護の質の向上を図ることにより、人々の健康と福祉に貢献するため、看護研究の推進と研修事業の充実を図ることです。

具体的には看護研究能力育成のための研修会の実施、研究活動を啓発し看護水準の向上を目指すための看護研究費助成金交付事業、静岡県看護学会の開催の3事業を行っています。

研修会は、看護研究とは何か、研究テーマの絞り込みに焦点を当てて学びを深め、看護研究の基礎研修につなげることを目的とした「看護研究の第一歩～研究テーマの絞り込み～」と、研究に取り組むための基本的な知識と研究計画書を完成するまでに必要な基本的スキルを学ぶことを目的とした「看護研究の基礎～研究計画書作成にトライ～」を東部地区と中部地区の2会場で行っています。また、プレゼンテーションの基礎的知識と技術を学び、研究成果を効果的に示すグラフや図表等を作成する方法を学ぶことを目的とした「効果的なプレゼンテーション技法～研究成果を示すためのグラフ・図表の作り方～」の研修を中部地区で行っています。今年度の研修参加者は、看護研究の第1歩95名、看護研究の基礎46名、効果的なプレゼンテーション技法54名で、90%以上の研修生が研修

内容に満足したと答えていました。

看護研究費助成金交付事業は、毎年4月1日～6月30日まで応募受付をしています。

静岡県看護学会は、日頃の研究成果発表の場です。本年度は「看護の未来を創造しよう～私の経験を意味づける～」をテーマに、令和2年1月18日（土）にグランシップで開催しました。当日は約300名の参加者とともに基調講演やシンポジウム、研究発表を通して経験を意味づけることの意義、看護の未来について考える場になりました。委員会はこの3つの事業を通して、臨床での研究活動が活性化できるように支援しています。



シリーズ 人の一生を支える看護職

看護職の仕事は傷病者や妊産褥婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことですが、病院や診療所だけでなく、訪問看護ステーションや福祉関連施設、企業、行政など活躍の場は広がり、看護職に対する期待も大きくなっています。そこで、県内の様々な場所で働く看護職を紹介します。

ケアの力ってすごい!



介護老人保健施設さきょうの郷

太田 恵美

私の看護人生に大きな影響を与えたのは、35歳で改めて学んだナイチンゲール看護論です。当時看護教員をしていた私は、これぞ看護だと実感し、看護の原点に戻ってもう一度実践してみたいと思い、再び臨床に戻ることを決意しました。それからの私は、ナイチンゲール看護論をあらゆる場で、様々な職種に伝えて実践しました。人工呼吸器を装着した方の入浴をした際には、僅かですが自発呼吸が出現、意識レベルが悪く発語がなかった方がある日突然発声するようになる等、感動の連続でした。諦めてい

たスタッフたちからも喜びの歓声と拍手が沸き起こりました。まさに看護の力を実感した時でした。急性期で手ごたえを得た私は、回復期や慢性期ならば、更に看護の力が発揮できるのではと思い、湖山リハビリテーション病院に転職しました。介護職もリハビリ職も巻き込み、皆でナイチンゲール看護論を学び、チームケアを展開しました。現在は、老健に所属しながら法人全体の教育に関わっています。「ケアとは何か、ケアの力でお客様の持てる力を引き出すことができる!」と熱く語り続けています。

寄り添う気持ちを忘れずに



介護老人保健施設ケアセンター
池田の街

大畑 とき江

私は約6年間内科に勤務後、脳外専門の病院に興味を持ち就職しました。脳外科専門医、最新の医療機器も充実した中、日々交通事故の受傷患者が搬送され、1分1秒を争う処置や手術すべては驚きの毎日でした。医師も熱心に患者の対応に当たり、私達看護師は、疾患の説明や観察の重要性を学びました。そんな折、バイクの交通事故による頭部外傷で瀕死の状態で搬送され、当初は助からないのではと感じた学生が、車椅子で退院された時にはとても感動しました。若さは無限の可能性を秘め脳の未知数を知ったことで働くことへ大きな意欲を持てたこ

とを覚えています。

現在は老健で認知症の方に関わっています。脳外科を経験したことから認知症という病気は環境が影響を及ぼすだけでなく、脳の器質的、機能的症状からも重ね合わせて考えていく必要があると思います。スタッフも少しずつ理解し観察するようになりました。利用者に声を掛けその時の気持ち、表情、様子を観察し、利用者の気持ちに寄り添うことが第一歩であることから始め、環境を整え認知症を疾患として捉えることを忘れないで欲しいと願っています。

生活する人に寄り添う看護



訪問看護ステーション浅田

野中 みぎわ

子どもの頃、高度難聴のせいで周囲との会話が減り寂しそうにしている叔父の姿を見て、「病気や障がいを持つ人の傍に居たい」と思ったのが看護師になるきっかけでした。病院勤務の後半10年は職場管理や人材育成が中心で、患者さんとの関わりは少なかったです。6年前、職場異動で在宅看護の道に入り、再び看護の対象者に寄り添う機会ができました。訪問で見た利用者さんは、病棟で見る姿とは違い、生活する人でした。病気や障がいを持ちながら自宅で生活する利用者さん・家族に寄り添い「安全に安心して過ごせているか」「望む生活ができているか」を利用者さん・家族や医療・介護・福祉関係者と一緒に話しあいながら看護サービスを提供するのが訪問看護の仕

事です。

看護判断や対応の良否が、即結果につながる厳しさがあります。反面、一人の利用者さんに集中して関わるのでニーズや希望を引き出しやすく、タイミングを逃さず必要な支援を提供することができます。孤独な利用者さんに寄り添う機会も少なくありません。そんな中で今更ですが「生活する人に寄り添う」ことを私は学ばせてもらいました。

ところで、以前の私は自分の家族が病気になっても、病院に連れて行くことくらいしかできませんでした。訪問看護の仕事を通して療養支援や生活支援の引き出しが増え、家族にしてあげられることも増えました(笑)。

第8回静岡県看護学会

看護の未来を創造しよう ～私の経験を意味づける～

学術研究推進委員 横井 志保

2020年1月18日に、「看護の未来を創造しよう～私の経験を意味づける～」をテーマに、第8回静岡県看護学会を開催しました。県内広域から363名の看護職にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。

日本看護協会副会長 秋山智弥先生の基調講演、救急看護・看取り・健診や訪問看護サービスの起業・看護学生など様々な分野の看護実践者によるシンポジウム、20題の演題発表の充実した内容に、アンケート結果からも「看護の原点に戻り、看護の素晴らしさを再発見できた」とのご意見や、全員が「これからの看護活動に活用したい」と回答をいただき

ました。日々の実践の中で、それぞれが経験しているケアの意味を考え、看護は常に患者・家族のニーズに応じて医療の成果を最大化するための創意工夫を行なう役割があることを再認識し、ますます多様化する社会の中で看護の立場でできることや今後の可能性を模索する有意義な機会になったのではないのでしょうか。

講師、シンポジスト、発表者を始め、参加者、運営スタッフ等、本会の開催に関わる全ての皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。



受講生募集

令和2年度4月・5月申込開始の研修紹介

No	研修名	開催日	申込期間
10	OJTトレーナー研修Ⅱ ー後輩育成に活かすコーチングスキルー	6/22 (月)	4月1日～10日
36 37	看護研究の第一歩 ー研究テーマの絞込みー	静岡6/17 (水) 三島7月予定	4月1日～10日
54	新入会員研修ー看護協会を知って活用しようー	東部・中部・西部 3会場で開催	4月1日～15日
2	おさえておきたい糖尿病看護の基礎	7/20 (月)	5月1日～15日
4	みんなで考え、広めよう看護倫理	7/16 (木)・17 (金)	5月1日～15日
11	〔JNA収録DVD研修〕 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	7/1 (水)・2 (木) 7/21 (火)・22 (水) 12/8 (火)・9 (水)	5月1日～15日

- eラーニング研修も4月から申し込みが始まります。
- 詳細は「教育計画」のリーフレットやホームページをご覧ください。

教育研修部職員紹介

今年度の教育研修部事務職のメンバーです。
(左から遠藤、小林、石川、飯塚)
今後も全力で取り組んで参ります！
どうぞよろしくお願い致しますm(_ _)m



令和元年度静岡県からの受託研修事業終了しました！

事業部では、令和元年度静岡県から5つの研修事業を受託し、総勢1,064名の参加がありました。多くの学びと仲間ができ、自施設・地域での活動に役立ててくれると思います。

暮らしをつなげる看護職員のための研修



退院調整の事例検討

看護の質向上促進研修



吐物の処置演習

高齢者権利擁護等推進事業



事例検討後の発表

認知症ケア体制構築推進研修



体制構築のため検討

1,064名が
参加



病院勤務の医療従事者向け
認知症対応力向上研修



認知症ケアサポートチームの模擬カンファレンス

協会立訪問看護ステーションの公益事業

がん相談支援センター緩和ケア認定看護師 による勉強会を開催

訪問看護ステーション掛川

昨年11月、中東遠総合医療センターのがん相談支援センターの緩和ケア認定看護師を講師に招き、がん療養者に関する連携についての勉強会を開催。

ケアマネジャーや地域包括支援センター、訪問看護ステーション等の関係者51名が参加しました。二人に一人ががんを患い、在院日数が短縮化される昨今、がん療養者を支える在宅スタッフの役割は大きく、急性期病院との連携をさらに強化する必要があると実感しました。



毎年、いわたナース交流会を開催してます！

訪問看護ステーションいわた



今回は、病院・診療所・地域包括支援センター・ケアマネジャー・訪問看護など、様々な場所と立場から23名が参加。事例を時間軸で振り返り、連携についてそれぞれの立ち位置でできることを、グループで話し合いました。本人の思いや暮らしの中で大事にしていることを本人の言葉で記録に残そう、知り合いになった看護師同士でもっと気軽に連絡しようなど、前向きな意見が多く出ました。今後も、看護の底力が発揮できるよう、楽しく地域で活動していきたいと思っています。

静岡県ナースセンター 事業実施報告

1 再就業等に関する研修

研修名	回数	参加者	就業者数(2月末現在)
再就業準備講習会	7回(5会場)	93人	51人
介護施設等再就業研修	3回(3会場)	36人	19人
体験型再就業チャレンジ研修	2回(1施設)	2人	2人



【受講生の背景】平均年齢 43.9歳
平均経験年数 10.3年
平均離職年数 7.5年

【主な受講動機】

- ・ブランクが長いので、学びなおしたい。
- ・子育てが一段落したので看護職に戻りたい。
- ・ナースセンター就業相談員に勧められた。

2 就業を続けるための研修

研修名	参加者数	実施状況
看護技術演習	118人 (2月末)	本所と東部・西部支所で実施しました。 採血・点滴の看護技術と今年度から新たに口腔・鼻腔吸引技術演習が加わりました。手順の確認と個々に合わせた実技演習を行っています。
再就業者フォローアップ研修	74人	2回実施。ナースセンター紹介で再就業した方が看護協会に集まり、お互いの就業状況や悩み・思いを共有しました。
セカンドキャリアセミナー	49人	2回実施。生涯現役を目指し、セカンドキャリアを考える時間を持ちました。セカンドキャリアの先輩看護職の方々から貴重な情報を頂きました。
新人看護職員研修 「Cheer up」	42人	今年度新入(新卒)看護職員を対象とした研修。 多施設の看護職が集合し、グループワークをして「Cheer Up (元気回復)」しました。

*次年度も看護技術演習、再就業準備講習会、介護施設等再就業研修を継続して実施します。
ハローワークでの移動相談や就業相談会等も引き続き開催し、看護職の就業支援を行っていきます。

最新情報はホームページでご確認ください。



お知らせ 東部支所の電話増設に伴い、FAX番号が変更になりました。FAX 055-928-5037

*** 悩みは誰かに話しましょう ***

悩みを抱えていませんか?悩みは一人で抱え込まずに、誰かに話しましょう。ナースセンターには相談窓口があります。
話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

悩み専用ダイヤル

054-202-1780 月～金曜日 9:00～16:00

新人専用ダイヤル

090-2183-8734 はなしてみよう 月～金曜日 9:00～16:00

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

(相談時間 9:00～16:00 本所のみ火～木は18:00まで)

本 所 : TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762
東部支所 : TEL 055-920-2088 FAX 055-928-5037
西部支所 : TEL 053-454-4335 FAX 053-401-3510

下田相談所(毎週木曜日): TEL 080-2650-0327
天竜相談所(毎週火曜日): TEL 080-2650-0237

申請資格のある方は、下記期間で登録をお願いします。期間を過ぎますと登録できません。

申込期間：令和2年4月1日(水)～4月30日(木) 必着

登録認定期間：令和2年5月1日～令和3年4月30日(1年間)

登録者に対しては、半日研修を実施します。

「災害看護フォーラム」

(令和2年9月1日(火) グランシップ中ホール)への参加となります。

申請資格

いずれかの研修修了者

・平成24年度「災害支援ナース登録者フォローアップ研修」

・平成24年度・25年度「災害支援ナース登録者移行措置研修」

・「災害支援ナース育成研修」

・静岡県看護協会会員であり、看護職としての経験年数が5年以上の方

・災害支援活動に意欲的であり、自己研鑽に努めている方

・県看護協会が必要とする災害看護領域の各期において実践できる方

・勤務施設及び所属長の理解と協力を得ることができる方

・未就業の場合は連絡手段が確保できる方

・派遣依頼に早急に応じることができる方

・災害支援に支障がない健康状態にある方(年齢は問わない)

※「災害支援ナース個人登録申請用紙」はホームページからダウンロードできます。

■ 問い合わせ **総務部 TEL 054-202-1750**

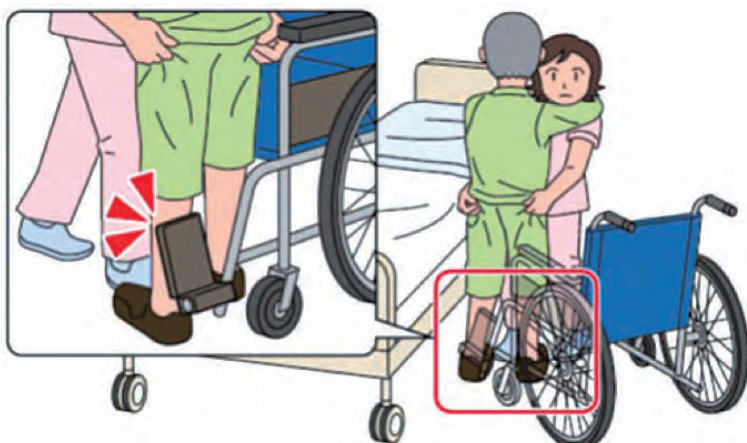
2019年度
第6弾

医療安全推進のための取り組み

働き続けられる職場づくり推進委員会

車椅子のフットレストによる外傷

患者の下肢が車椅子のフットレストに接触して外傷を生じた事例が報告されています。皮膚が脆弱な患者の場合、少しの接触でも、皮膚の裂傷(スキン-テア)が発生する場合があります。また、強く当たった場合には、皮下組織に達する深い裂創が生じることもあります。



事例が発生した 医療機関の取り組み

- ・患者の状態を把握し、介助方法や介助する人数を検討する。
- ・フットレストにカバーをつける。
- ・皮膚が脆弱な患者の移乗時は、ズボン・靴下などを着用して下肢を保護する。

参考 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報NO.147

クイズはお休みします

新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に、3月に開催予定の静岡県看護協会主催のすべての委員会の開催を中止しました。広報委員会も開催を中止したため、当選者の発表とクイズは休みします。VOL.5のクイズの答えと当選者は新年度のVOL.1に掲載します。

看護しずおかへのご意見、感想をお寄せください(匿名・ペンネーム可)。



新型コロナウイルスを防ごう!

マスク

せきエチケットしよう。

手洗い

指の間、爪先、親指まで丁寧に。

うがい

うがいやアルコール消毒をしましょう。